

## ふるさと元気懇談会（第2回）会議録（要旨）

【日 時】	平成 26 年 8 月 26 日（火） 18 時 30 分～20 時
【場 所】	船木ふれあいセンター 講堂
【出席者】	○久保田市長 ○うりぼう倶楽部 ○楠むらづくり株式会社 ○夢ゆめクラブ ○厚東ネット ○北部地域振興課 ○農林振興課 ○市民活動課 ○事務局（産業振興部、広報・シティセールス部広聴課） 6 人
【市 民】	参加者 42 人
【概 要】	1 開会 2 市長あいさつ、市政概要説明 3 各団体の活動紹介 4 各団体と市長との意見交換 5 市長総括 6 閉会

### 意 見 交 換

<p>【うりぼう倶楽部】</p> <p>○活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年 1 2 月に市民活動課の助成金を使った婚活イベントを開催し、今年の 6 月にも自主財源で再び婚活イベントを開催した。成果としては、昨年 1 2 月は 30 組中 3 組、今年の 6 月は 15 組中 5 組で、カップルの成立を確認している。</li> <li>・「宇部市小野MAP」を昨年作成。</li> <li>・地域のイベントへの参加や、活動のお手伝いをしている。</li> <li>・北部他地域と同様に、小野地区においても少子高齢化対策というのは、喫緊の課題である。人口減少にどう歯止めを掛けていくのか、また、人口減少を前提とした社会の仕組み作りを同時に考えていかないといけない、そういうポイントにきているのではないか。</li> <li>・この 9 月の内閣改造で、地方創生担当相が新設され、地方経済、雇用の再生、移住者支援というところを重点的に取り組むとのことで、空き家対策として自治体などが子育て世帯向けに改修、貸し出しする補助金制度というものもあげられていた。この制度をこれから活用しながら、古民家再生等の活動に取り組んでいきたい。</li> </ul> <p>【楠むらづくり株式会社】</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○活動報告

- ・市の施設を預かり、中山間地域の振興として一次産業である農業をいかに振興していくかということを行っている。塾生の育成を行い、自ら農業へ参入し荒廃地を防いでいる。
- ・空き家を使って何かをしたいということは、持ち主の方も思っておられるので、これを今後我々の方も展開していきたい。
- ・施設には温泉があり、健康という部分を含め、スポーツについて考えたい。自転車で走っておられる方も多くいるので、これから周辺のマップの整理、町林道の整備等も含めて、スポーツにも力を入れて集客したい。

【楠むらづくり株式会社】

○活動報告

- ・温泉を窓口を集客し、四季彩市で物販をし、レストラン部門で食材を提供するというところを行っている。
- ・古民家の空き家対策で、こもればの郷のすぐ隣の空き家を借り、古民家「倉」というレストラン事業を始めた。こちらも、『やまぐち食彩店』の認定を受け、ここで行っているギャラリーでは60%以上山口県産材を使った玩具等を販売し、このたび『やまぐち木の店』として認定された。
- ・加工場では、これから6次産業化を進めて、いろいろな加工品を作りたい。
- ・「ゆうれい寿司」の団体といろいろお話を進めており、「ゆうれい寿司」を継承するとともに、こもればの郷でもいろいろなデザイン化をして、もっと一人歩きできるようなものにしていきたい。
- ・6次産業化に向けて、国の補助事業を受けるために計画中であり、宇部市に窓口になっていただかないといけない。協力をお願いしたい。

【夢ゆめクラブ】

○活動報告

- ・吉部校区全体の70%以上の皆さんからいただいた吉部の夢を、“人でにぎわう夢”、“地域資源から生まれる夢”、“健やかな「吉部っ子」を育てる夢”、“将来を見すえた夢”の4つに体系的にまとめ、それを実現させるための実行部隊として平成21年6月に23名で発足した。今現在は32名、3つの部会で活動している。
- ・「トンネル部会」では、旧船木鉄道の荒れたトンネル・軌道敷きを整備し、広葉樹、ツツジなどを植え、里山の再生をしている。特に、千本桜峠峡計画では、軌道の側面や公園、各自治会の周辺に約20本の植樹をして、いま桜を待つばかりであり、咲き始めれば桜祭りに取り掛かれると思う。
- ・「ホテル部会」では、5月、6月の2回、ホテル祭りを開催している。今年、1,000名の来客があった。大麦を栽培し、ホテル籠を作るという趣向も凝らしている。また、バザーによって自主財源の確保にも取り組んでいる。

## 意見交換

- ・休耕田にコスモスを植えている。特に宮ノ下の1箇所は、11月3日の秋の大祭に合わせて咲くようにし、相乗効果をもたらしている。
  - ・これらの活動は、試行錯誤しながら毎年バージョンアップしている。
  - ・その他の活動としては、視察の受け入れ、うべ探検博覧会との連携、そして県民活動審議会への参加、新しいものとしては学校運営協議会との関わりとして、本年度は児童の夢を掘り下げ、その夢をいただくということに取り組んでいく。
  - ・現在の課題としては、会員の高齢化、若年層の地域活動への参加の不足で、マンパワーが足りない。
- そんな中、コミュニティの諸団体、そして宇部フロンティア大学、そして行政、特に地域支援員のサポートで、大変活動が活発になっている。このような取組、サポート体制を今後も継続的に続けてほしい。
- ・取り組むべきものに対しての資金援助の情報を、いただければありがたい。
  - ・過疎・高齢化地域の支援、若い世代の家族を集める仕組みといった“将来を見据えた夢”に取り組むことがなかなかできていないのが1番の課題である。

### 【厚東ネット】

#### ○活動報告

- ・厚東小学校の児童を増やしたい。
- ・NPOの厚東ネットは、平成25年10月に設立し、この4月から本格的な活動を開始した。学童保育と放課後子ども教室を運営する「ひだまり」、この運営と地域づくりのための「らぶ厚東」、また今年からは子供や高齢者の見守りといった「見守り隊」の活動、そして竹林ボランティアの「竹林」、この4つの事業、活動を持って、NPOとして厚東づくりの活動に、これから邁進をしていく。
- ・厚東では学校と地域と家庭とNPO厚東ネットが一体となって、児童を増やしていくという取り組みを始めた
- ・平成24年から始めている“空き家プロジェクト”では、昨年校区内でアンケートを取り、台帳を作るなどし、校区内外から話がある方々をご案内した。昨年は1件ほど、小学生1人、中学生1人のいる若い世帯が厚東に引っ越してきた。こういった形で、厚東小学校の児童を増やしていきたい。
- ・特認校制度の活用を真剣に考えて、校区外に向けて発信をしていきたいと思い、リーフレットを作成した。特認校制度については、誤解があるようなので、その辺も含めて厚東の環境をPRすることによって、是非厚東に来ませんかという内容となっている。
- ・厚東では学校だけではなく、地域みんなで子育てをしている。成長の応援をしているというところで、学童保育、放課後子ども教室がとても充実している。
- ・各施設等にリーフレットを置き、若い親に少しでも厚東に目を向けてもらい、特認校制度を利用し厚東小学校の児童を一人でも二人でも増やしていきたい。市へは市の公共施設へのリーフレットの設置をお願いしたい。

**【うりぼう倶楽部】**

- ・“古民家再生で婚活”について、平成25年12月に来場者が200人という盛大な婚活イベントとなり、3組のカップルが、平成26年6月の2回目では5組のカップルが成立した。
- ・婚活イベントは、結婚してこそ成功、小野に住んでもらって成功と言える。仮称「アクティブ青年隊構想」では、中山間地域、古民家再生、農業のいずれかに興味がある男女各30人ずつの独身者を募集し、新たな組織を作って、古民家の再生、農業の再生、地区の活性化等の活動を行っていききたい。あくまでも婚活を第一にということで考えている。
- ・小野湖畔で立地条件も大変良い臼木地区に築百年の古民家があり、修繕すれば住居として利用も可能である。水稻、野菜作りが可能な休耕地も近くにある。
- ・再生費用については、国等に、600万円ぐらい補助を申請したい。この600万円は、家財道具処分費、修繕材料費、農地の再生費用にあて、人件費等についてはほとんどボランティアでいこうと思う。
- ・再生後の古民家については、そのイベントで、カップルとして成立した人への提供や、小野に移住される方の住居としていききたい。
- ・今回の提案は、従来の婚活イベントとは全く違うものです。長期間行うことで参加者がよりお互いを理解でき、多くの成果が期待できる。小野地区の行事には、企画・運営から積極的に参加してもらい、小野地区の方と交流を深め、人材育成も図ることができる。
- ・活動を通して結婚というゴール、地域活性化の多方面に渡るゴールを目指して、小野が元気になれるよう構想をしてみた。

**【夢ゆめクラブ】**

- ・空き家対策は、10年ぐらい前にいろいろやったことがある。大工さんから多くの情報が得られる。私からも、情報を提供しよう。

**【厚東ネット】**

- ・特認校リーフレットの作成や編集は全部地元で行ったが、印刷費用の数万円を教育委員会で、援助していただき、1,000部完成をした。本当にありがとうございました。リーフレット「ひなたぼっこ」の方は、地元のNPOで捻出した。

**【楠むらづくり株式会社】**

- ・できるだけ定住してくれる人を増やしたい。  
とにかく来てもらって、知ってもらって、最終的に住んでもらう、そういった魅力づくりをしていきたい。
- ・スポーツ振興も含めた形で、是非いろんな面でコラボができる団体とやっていきたい。いろんなツーリズムを含めて、我々の方の会社及びそういった諸団体の力を合わせながらや

っていきたい。

**【夢ゆめクラブ】**

- ・活動していく上で、一番の問題点は、会員の高齢化と、マンパワー不足である。集落支援員の方に応援してもらっているが、これまで以上に支援員の応援をお願いしたい。
- ・45年ぶりに吉部に帰り、一番感じたことは、空き家、荒廃した田畑、これらが思っていた以上に進んでいるということ。何とか空き家や耕作放棄地を少しでも再生、利用できるように行政も取り組んでいただきたい。

**【夢ゆめクラブ】**

- ・企業の地域貢献という中で、農林企業などが地域貢献活動の一環として地域とコラボして、連携して行うという仕組みが、いま市にあるのか。

**【うりぼう倶楽部】**

- ・企業の地域貢献、CSR活動は、企業が独自に判断して行うので、おそらく宇部市とは何の関係もない形になっている。
- ・私も自社で、小野湖の清掃を宇部市の小野湖の水を守る会と一緒に行ったが、あくまで自発的な活動ということになっている。

**【夢ゆめクラブ】**

- ・情報として、市がそういうことをまとめられれば、コラボというか、繋ぎ役ができるのではないか。

**【市長】**

- ・基本的にはそれぞれの企業の判断になるが、行政としてできる範囲で仕組みの中に入れ込んでいる。
- ・仕組みとして入れ込んでいるものとしては、公共事業の入札の制度において総合評価制度がある。例えば、清掃活動、樹木の伐採や川の汚泥を取るといった地域貢献は、宇部市だけでなく、県・国においても総合評価制度においては必ず評価の中に入っている。
- ・地域貢献には、公共事業の事業者あるいは、業界において、独自に行うもの、また、市が依頼をするものがある。それは、防災の協定や地域の見守りのお願いを、スーパーマーケットや、日常的に配達業務で家庭を回る業者へ、企業の日常的な活動の延長線でできる社会貢献としてお願いしている。地域貢献やCSR活動は、基本的には企業の主体的な判断になる。

**【土木建築部】**

- ・従来の入札制度は、安価な方法で落札するということが主流であったが、これからは総合

## 意見交換

評価制度として、先ほど市長が言ったように地域貢献等の企業の社会活動が評価項目となる入札制度に移行した。

### 【夢ゆめクラブ】

- ・例えば、竹の伐採を行っているが、その処理に長けた企業がある。そのような情報がほしい。実際に市では、そのような貢献の中で連携があるのか、情報があるのか、ないのか。

### 【市長】

- ・小野湖の清掃活動を行う時には、民間専門業者が無償で大きな機械を持ってこられて流木をチップ化し、水道局は手足を洗う水や飲み水を提供している。官と民が協力する良い事例となっている。
- ・活動の範囲を広げるとなれば、各地域の活動に協力してくれる業者の情報を取りまとめる方法もあるかもしれない。

### 【北部総合支所次長】

- ・小野、二俣瀬、厚東、吉部、万倉、船木の面積は宇部市の66%あり、そこを6人の支援員が2組に別れて2地区ずつ担当している。
- ・全員の力が必要とのご要望等があれば、地域支援員だけでなく北部地域振興課と一緒にバックアップをします。

### 【厚東ネット】

- ・厚東学校運営協議会では行きたい学校、帰りたい家庭、戻りたい地域をキャッチフレーズにして活動をしている。地域で出来ることを考え、取り組み出したのが厚東の学校運営協議会の成り立ちである。
- ・校長先生や各団体が学校にどのように携わっていくのか、学校から我々に何を要求されるのか、皆でいろいろ検討し、その結果今の厚東コミュニティスクールが出来上がった。
- ・空き家対策について、厚東ネットの皆が集まって空き家の周りや中の清掃をした。今年は9月に、1家族の入居があり、厚東小学校では1年生と3年生が一人ずつ増えた。
- ・厚東小学校では毎学期、地域参観日を設け、保護者だけでなく、いろんな方に学校に来ていただいている。来ていただいた方から空き家の情報を得て、空き家対策の活動につないでいる。
- ・人が集まっていろんな考えを出し、考えていく事が一番いい方法かなと思う。

### 【厚東ネット】

- ・来週からリーフレットを50ヶ所に配布する。一か所20部しか配布できないが、ふれあいセンターとか図書館といった公共施設に置くことが出来るか。

【市長】

- ・もちろん大丈夫です。

【厚東ネット】

- ・リーフレットは今年からの活動だが、継続性が必要。来年も作成したいが、その印刷代はサポート助成金の対象になるのか。

【市民活動課】

- ・対象になる。事業に必要な経費が対象になるが、運営のための固定経費等は対象外。印刷製本費は要綱で対象になっている。

【厚東ネット】

- ・特認校就学制度について、今後利用者が増えた場合、路線バスの時間の問題や、コミュニティスクールバスなどの行政的な支援も市と一緒に知恵が出ると良いと思う。そうするとこの制度もより拍車がかかってより理解が広がって良いものになる。

【夢ゆめクラブ】

- ・吉部全体を維持管理することは非常にたいへんであるとともに、地域の振興をいかにするかも大変である。農業も林業も大変な状態である。
- ・農業については、いろんな情勢が大変厳しくなっており、今からどうするのかというところである。今、人気があるのは日本酒の醸造に使われる山田錦で、一俵あたり2万2千円で売れる。そういった売れる商品をどんどん作り、海外へも輸出できるというところで、情報に反応して良い物を作る。そして、ブランド化して行くような方向にもっていく。そうすると雇用も増え、産業的にも活発にもなり村おこしに繋がる。いきなりにはならないと思うが、酒造りから始めれば一つの目玉商品になる。
- ・古米を使って京都の和菓子の様な物が年間を通じて生産出来ないか。こちらとしては原材料の供給はいくらでもできる。地域産業おこし6次産業化の始まりなのだが、いろんな和菓子生産がある。そのような加工部門の展開ができれば、雇用が生まれるのではないか。地元の産業の振興にならないか、活性化という字だけで終わらないで実際目に見える形に変わっていかないか。いい案があったらお願いしたい。

【うりぼう倶楽部】

- ・今後、宇部市が平成33年に100歳を迎えるという話があったが、実際に200歳を目指せるくらいの生きがいは、我々北部地域に6割のウエイトがあると言われている。
- ・そこで生活をする今、我々が悩んでいる農地や空き家の問題がある。そういった地域資源に関する直面する課題、脅威があるが、将来200歳になる宇部市の次の世代に、僕たち

## 意見交換

がどのように繋いで行けるか。いま、脅威でしかないものをいかに子どもたちに「このおじさん達頑張っているな」という見せ方をして行きたい。

- ・小野地区にある空き家を一つの素材としながら我々うりぼう倶楽部として婚活というところからのスタートだったが、小野に子どもを産み育ててもらうことが大目的である。今までホップステップでやってきたものを更にジャンプしたい。これまでも多大なるご支援をいただいているが、今後とも企画など突拍子もないものが出てくる地域でありたい。支援をお願いできたらと思う。

### 【市長】

- ・北部地域は、荒廃した田畑、空き家の増加、人口減少、少子高齢社会に直面しているが、これは宇部市全体の問題であり、国全体の共通した問題でもある。一部の大都市とその近郊以外はほとんどの地域でこのような問題を抱えている。国を挙げてこの問題に取り組んでいるが、なかなか実効性が上がらず歯止めがかからないのが現状である。
- ・市としてもしっかりとした公民連携のパートナーシップを築き、連携事業を更に前に進めていきたい。
- ・中山間地域を活性化するという事は、そこに人が暮らすということがなにより原点である。人が暮らすためには何が必要なのか。やはり、安定した仕事が必要である。それが一次産業である農林業だけでは難しく、一次産業の厳しい状況は人が去っていく要因の一つになっている。しかし、一次産業の持っている食糧生産、或いは地域の多面的機能の保全、それらを考えると私たちは諦める訳にはいかない、なんとかその機能を復活させていきたい。
- ・まずは雇用の場を作り、地域の産業の復権を果たすべく本来の方向性を決して見失ってはいけない。地域の産業の復権を図ること、それでいえば集落運営の法人化、耕作放棄地対策、企業の参入とさまざまなことが国においても行われている。それを取り込んで本市でも進めていける、農林業、地域の産業を決して私たちは諦めない。そういった確たる姿勢が行政には必要である。
- ・本市としても農林業への取り組みを強化している。原材料の供給から、加工品作り、単に加工に留まらない商品としていくという意味での6次産業化について、今までは国の制度と宇部市の制度だけであったが、ここに山口県独自の制度である6次産業サポートセンターができた。本市としても、これから県の仕組みと繋げて行きたい。
- ・東京から飛行機で90分、日本の豊かな中山間地域が、四季を通じて体験できる。深い山に閉ざされることもなく、温暖な瀬戸内気候の中にある豊かに広がる中山間地域は、日本にそうそうあるものではない。この資源を活用する古里ツーリズムを盛り上げていかなければならない。そういった観点からこの地域で本来の産業を改めて掘り起こす。それは食糧の生産であり商品化であり、それらを巡る多様なツーリズムが可能性を持っている。
- ・京都府がおこなっている半公（官）半民制度もヒントになるが、本市では中山間地域支援員あるいは地域支援員を配置している。地域支援員を本格的に北部全体に広げており、今

## 意見交換

年は試行的な取り組みである。状況によって更に増員していくということも当然ある。新しい働き方の仕組みへと発展させていきたい。

- ・安定した仕事があるということが、この地域に人が入ってくる大切なきっかけとなる。また、そこに住むということになると、子どもにとって良質な教育環境があるのか、多様な教育のメニューに対応できるのかなど、教育の質が求められる。さらに、食の安全や医療、交通機関の充実も求められる。
- ・地域の交通網について、今のデマンドは大赤字で、いつまでもこの仕組みで良いとは思っていない。宇部市交通局も、一般財源を投入して支えているのが現状である。
- ・コミュニティバスの見直しについては、交通体系全体の公共交通のあり方検討会で進めている。一定の乗客が無いところはバス停を廃止する、逆に一定の乗客があるところにバス停を作る。先ず全国いろいろなところで行われている様々な取り組みを参考に新しい仕組みを作っていくことが必要であるということが検討会の中で議論されている。最終的に、議論もふまえて、抜本的な交通網の見直しが必要であると考えている。
- ・中山間地域の活性化には仕事そして住まい、生活を支えるためには教育、食、医療、交通、その中で家というものをどう確保するかということだと思っている。そのようなことを中期実行計画に織り込んでいる。
- ・空き家の活用については、現在の税制は、空き家のほうが有利であり、わざわざ空き家を増やせといっているようなものである。国も見直しを本格的に議論している。この税制改正を見据えながら本市も危険な空き家の除却というレベルから更に、今後は空き家の活用というところに踏み込んでいき、空き家についてより一層の充実した政策を見つけていきたい。
- ・市民活動と企業活動CSRとのコラボレーションについても検討していきたい。